第２学年　生活科　学習指導案

１　単元名　　おいもでフェスティバルをしよう
～　ぐんぐんそだて　②　～

２　単元の目標

○　野菜の苗を育て，世話を続ける中で生長の様子に関心をもつことができる。

○　野菜を育てる活動を通して，それらの育つ場所，変化や生長の様子に気付き，植物も自分たちと同じように生命をもっていることを感じ取るとともに，それらを大切にすることができる。

３　単元の評価規準

＜生活への関心・意欲・態度＞

サツマイモの生長や収穫を楽しみにしながら世話を続けたり，収穫を祝う会に進んで参加したりしている。

＜活動や体験についての思考・表現＞

サツマイモの生長や収穫への期待などを表現したり，収穫を祝う会を計画したり，実行したりしている。

＜身近な環境や自分についての気付き＞

サツマイモと他の野菜との生長の違いや，収穫を祝う会をすると生活が楽しくなることなどに気付いている。

４　単元と指導の構想

(1) 単元のとらえについて

> (7) 動物を飼ったり植物を育てたりして，それらの育つ場所，変化や成長の様子に関心をもち，また，それらは生命をもっていることや成長していることに気付き，生き物への親しみをもち，大切にすることができるようにする。＜小学校学習指導要領生活科　解説編＞

本単元は，上記の指導内容を踏まえて構成した。子どもたちは，春からミニトマト，ピーマン，ナス，サツマイモなどの野菜を一生懸命育ててきた。野菜を育てることは，植物の日々の生長や変化，実りに愛着をもって観察することが可能で，子どもたちに生命を身近に感じさせることができる。また継続的に世話をし，繰り返し野菜にかかわる過程で，生命をもっているものを大切にする心情を育てる価値ある体験となる。

野菜の中で，サツマイモは土の中に実を付けるので，子どもたちは他の野菜に比べて変化を感じにくい。また，サツマイモの栽培は間引きや支柱を立てるなどの栽培の工夫も少ない。野菜を収穫し，食べることを目指している子どもたちにとって，サツマイモを栽培することに対する関心は他の野菜に比べて薄い。そこで，サツマイモの栽培において，土の中のサツマイモがどうなっているか大きさを予想させたり，サツマイモを擬人化させて手紙を書かせたりする活動を意図的に位置付けていくことで，価値ある体験にしていく必要がある。

本単元は，「ぐんぐんそだて①」の経験を生かして，主にサツマイモの観察，収穫，まとめの活動を行う。サツマイモの収穫は，子どもたちにとって楽しみなものである。収穫を祝ってパーティーをしようと意欲的に取り組んだり，生長の仕方を人に紹介したりする学習活動を行う。また，これまでの栽培活動のまとめとして，サツマイモと他の野菜の生長の仕方を比較して異同に気付かせることができるものと考えている。

(2) 子どもの実態と単元のかかわり

「ぐんぐんそだて①」の観察カードから子どもの様子を見ると次のようである。

・絵と文でかんさつカードを書いた子ども……全員
・「生長したことに喜びを感じている」子ども ……数名
・「前の野菜の様子と比べて変わったことに気付いた」子ども ……２／３

このような実態から「ぐんぐんそだて①」では意欲的に栽培活動に取り組んだり，生長の変化をしっかりとらえたりしている様子が分かる。反面，生長の不思議さや喜びを表現するまでには至っていない子どもが多いことも分かる。

以上の実態を踏まえて，この単元では，「サツマイモが大きくなってうれしい」と喜びを感じたり，「土の中でどれぐらい大きくなっているだろうか」と疑問をもったりすることができるような単元構成にしていく必要がある。それによって，「楽しかった」「またやりたいです」という感想にとどまることなく，「サツマイモがおいしくできたら，みんなで味わいたい」「サツマイモをもっと大きくしたい」「できたサツマイモのつるでリースをつくりたい」などと自分なりの思いや願いをもち，主体的に活動をする姿を生み出すことができると考えている。

(3) 自己課題解決に向けた指導の方策

① 単元構成を工夫する

「ぐんぐんそだて①」では，意欲的に野菜の栽培活動に参加していた。苗植え，水やり，草取り，収穫など，継続して野菜とかかわることができた。ただ，水やり活動は当番制であったこと，野菜パーティーはボランティアを募って活動したことなど，どちらかというと教師の計画によるところが多かった。つまり，子どもたちが主体的に活動するという点が弱かったと考える。

そこで，児童が主体的に野菜にかかわることができるような単元構成を工夫する。子どもたちの発言，カードの記述，行動観察などを基に，意識の流れに沿って活動をつなげるよう工夫する。具体的には，ただ観察カードを書くだけにとどまらず，土の中のサツマイモの様子や大きさを予想させる働き掛けをする。子どもたちはまだ出合ったことのないサツマイモに興味や愛情をもち，大きいサツマイモを育てようと意欲的に栽培活動に取り組むものと考える。また，収穫後は，おいもフェスティバルをすることを投げ掛け，前回の野菜パーティーよりもパワー　アップした「フェスティバル」をしようという目標をもたせる。さらに，サツマイモと他の野菜との生長の仕方を比較させることで，「サツマイモは他の野菜と違って土の中で大きくなる」などと，植物の生長について気付きを高めることができると考える。

同時に，「サツマイモのつるを使って遊びたい」「大きくなるまでわくわくした」など，主体的に自分の思いや願いを表現する姿が出てくることを願っている。

② 振り返り表現する機会を設ける

「ぐんぐんそだて①」の観察では，観察時間を確保したりカードに赤ペンを入れた学習の足跡を掲示したりしたことによって，意欲的に観察カードを書くことができた。また具体的な気付きの視点を与えたことで，生長の変化を見付けたり何かにたとえたりして記述することができるようになった。ただ，生長の喜びを表現する姿があまり見られなかったことが課題である。

「ぐんぐんそだて②」では，観察カードに「サツマイモさんへ」のコーナーを作り，サツマ　イモを擬人化して記入させる。また，単元の中で，サツマイモへ手紙を書く機会を３回位置付けている。それぞれの過程において，サツマイモへの愛着を実感させたりサツマイモに対する心情を表現させたりするのにふさわしい場と考えたためである。１回目は，まだ見たことのない土の中のサツマイモの様子を想像したり，生長を願う気持ちを表現したりしてほしいと考える。２回目は，収穫後にサツマイモに会えた喜びを表現してほしいと考える。3 回目は，サツマイモにフェスティバルを楽しませてくれたお礼の気持ちを表現してほしいと考える。また，報告会や発表会など，自分の考えを伝える学習活動を設定する。思いや願いを明確にして，自分たちだけではなく，１年生や保護者など相手を意識して伝える体験を位置付けることで，個々の気付きが広がり，深まることを期待するからである。

５　単元の指導計画（全20時間）

次	時	○学習のねらい　・主な学習活動	評価の観点			
			関	考	気	具体的内容
わくわくおいもさん 6	3	○　単元の流れを確認し，サツマイモを観察する。 ・単元の流れを確認する。 ・サツマイモの様子を観察する。 ・他の野菜の生長の仕方と比べる。 ・土の中でのサツマイモの大きさを予想する。		○	○	・サツマイモと他の野菜との生長の違いを考えている。 ・サツマイモを大きくするために自分たちができることを考えている。
	3	○　サツマイモ名人の話を聞く。 ・サツマイモのお世話の仕方についてアドバイスを聞く。 ・草取りをする。 ・サツマイモにあてた手紙を書く。 ・生長を願う気持ちを話し合う。	○		○	・サツマイモのよりよいお世話の仕方について知ろうと相手の顔を見て話を聞いている。 ・手紙にサツマイモの生長を願う気持ちが書いている。
まっていましたおいもさん 2	2	○　収穫をする。 ・サツマイモの収穫をする。 ・サツマイモにあてた手紙を書く。 ・サツマイモに出会えた喜びを話し合う。		○		・サツマイモに出会えた喜びを書いている。
ようこそおいもさん 12	2	○　おいもフェスティバルの計画を立てる。 ・野菜パーティーよりパワーアップさせる方法を考える。 ・発表したい内容や方法について考える。 ・発表の内容や方法を決める。		○		・野菜パーティーよりパワーアップさせる方法を考えている。 ・おいもフェスティバルで発表したいことや方法の仕方を話したり書いたりしている。
	6	○　おいもフェスティバルの準備をする。 ・野菜の生長の様子を想起する。 ・紙芝居，劇，クイズなどの発表の準備をする。 ・１年生への招待状を作る。 ・おいも料理の作り方を調べる。	○	○		・意欲的にフェスティバルの準備をしている。 ・相手意識をもってフェスティバルの準備をしている。 ・栽培を通しての気付きを入れながら発表の準備をしている。
	3	○　おいもフェスティバルをする。 ・発表会をする。 ・おいものリースで飾り付けをする。 ・おいも料理を作る。	○			・楽しく活動している。
	1	○　まとめをする。 ・サツマイモにあてた手紙を書く。 ・楽しませてくれたサツマイモへの感謝の気持ちを話し合う。		○		・手紙の中にサツマイモへの感謝の気持ちが書いてある。

６　本時の学習（指導全20時間，本時12時間目）

(1) 本時のねらい

○　１年生に知らせるために，これまで育てた野菜の特徴やお世話の仕方について野菜カレンダーにまとめる。

(2) 本時の構想

①　１年生へプレゼント

これまでいろいろな種類の野菜を育ててきた２年生として，来年２年生となる１年生のために野菜の特徴やお世話の仕方について教えてあげることにする。活動や体験をもとにしながら，相手意識や目的意識を明確にすることで，子どもたちが主体的に取り組むものと考える。

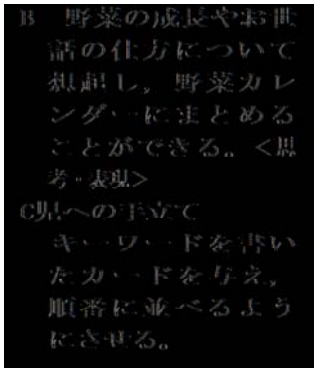
②　野菜カレンダーを作成

①のためには，まず野菜の生長や自分たちがどのようなお世話をしたのかを思い出させる必要がある。その時々に観察したことをもとに，いつ，どんな順番で生長し，どのようなお世話をしたのかを，「野菜カレンダー」としてまとめることで，これまでの活動を想起し，それぞれの野菜について一般化してとらえることができると考える。また，野菜カレンダーを作成することで，伝えたいことが明確になり，発表への意欲もさらに高まるものと考える。

③　教室環境を整備

子どもたちが想起しやすいように，これまで書いた観察カードを手元に置くだけではなく，それぞれの野菜の写真を掲示しておく。また，野菜に関する本を学級に置いておく。「トマトは何のためにめかきをしたのか」などといった疑問が生まれた場合，すぐに調べられるように，２年生の子どもに合った本を置いておく。

(3) 本時の展開と評価

学習内容・活動	主な教師の働き掛けと子どもの反応	・指導上の留意点と評価
○　前時の活動を振り返り，本時の活動を確認する。 （5分）	T　前の時間はおいもフェスティバルでどんなことをするのか話し合いました。その中で，１年生に野菜のことを知らせることにしました。どんなことを伝えるとよいのでしょうか。 C　いろいろな野菜の育て方を教えてあげたいな。 C　いろいろな野菜の特徴を教えてあげたいな。 C　料理の仕方を教えてあげたいな。	◇自分が選んだ野菜について想起しやすいようにグループで話し合わせる。 ◇時期，様子，お世話の仕方について書き込みができるようなワークシート，カードを工夫する。
○　野菜カレンダーを作成する。（30分）	自分が選んだ野菜が，どんな順番で生長していったのか，どんなことをしてあげたのかを，野菜カレンダーにまとめてみましょう。 C　楽しそうだな C　難しそうだな。 T　どんな順番で野菜が生長していったのか，思い出してみましょう。 C　最初の苗の高さは，低かったよな。 C　途中で花が咲いたね。何色の花だったかな。 C　その後に実ができてきたね。 C　どうなっていたか忘れたな。観察カードを見てみよう。 T　どんなことをしたかも書き出してみましょう。 C　苗が倒れてきたので，支柱を立ててあげたなあ。 C　夏休みも水やりをしたなあ。 C　雑草をとってあげたな。 野菜カレンダーができあがりました。これで，１年生に野菜のことを知ってもらうことはできそうですか。 C　生長の様子がこれだけでは分からないな。絵を入れると分かりやすそうだ。 C　ポイントをクイズみたいにしたら，楽しく伝えられるかもしれない。	◇活動の仕方について教師がモデルを示した後，それぞれの野菜の成長やお世話の仕方について想起しやすいように個別指導をする。 ◇子どもたちが成長の仕方を想起しやすいように，写真を掲示しておく。 ◇子どもたちが疑問を解決しやすいように学級に野菜に関する本を置いておく。  B　野菜の成長やお世話の仕方について想起し，野菜カレンダーにまとめることができる。<思考・表現> C児への手立て キーワードを書いたカードを与え，順番に並べるようにさせる。
○　できあがったカレンダーについて感想を述べる。 （10分）	T　今日の活動を振り返りましょう。 C　はじめは難しいと思ったけど，やってみたら楽しかった。 C　思い出せないときには，カードや写真を見ればよいということが分かった。 C　みんなで協力して，カレンダーを仕上げることができてよかった。 T　できあがった野菜カレンダーをもとにして，次の時間は１年生に伝わるように発表の方法を考えましょう。	◇子どもの感想を生かし，発表の方法を考える次時につながるように支援する。